



裡 公 立 農 林 學 校

(大 正 十 一 年 四 月 創 立)

沿 革 寫 真 帖

昭 和 十 年 十 一 月

朝 鮮 總 督 府 始 政 二 十 五 年 周 五 紀 念

裡里公立農林學校沿革寫真帳

目次

刊行之辭……………	校友會長 古川 不可止	第三十三頁
御合臨ヲ仰奉リテ……………	學 校 長	第三十四頁
德大寺侍從ノ御來臨ヲ辱フシ謹ミテ……………	學 校 長	第三十五頁
錄ス……………	學 校 長	第三十六頁
齋藤總督ノ告辭……………	學 校 長	第三十七頁

寫真目次

本校ノ光榮……………	第二頁
本校全景、正門、遠景……………	第三頁
題辭(宇垣總督閣下、齋藤總督閣下)……………	第四頁
題辭(水野鎮太郎閣下、有吉忠一閣下)……………	第五頁
題辭(故野田大塊氏、柴田善三郎閣下、上田觀學官)……………	第六頁
題辭(李知事閣下、松村氏、弓削氏)……………	第七頁
題辭(高橋亨氏、山本前校長、高橋濱吉氏)……………	第八頁
創立關係並盡力者(其ノ一)總督府關係……………	第九頁
創立以來、歷代本道知事……………	第十頁
創立內務部長並學務課長……………	第十一頁
創立關係並盡力者(其ノ二)本道關係……………	第十二頁
民間盡力者(其ノ一)……………	第十三頁
同(其ノ二)……………	第十四頁
同(其ノ三)……………	第十五頁
同(其ノ四)……………	第十六頁
學校長、校旗、第一本館……………	第十七頁
現在職員(其ノ一)……………	第十八頁
同(其ノ二)……………	第十九頁
舊職員(其ノ一)……………	第二十頁
同(其ノ二)……………	第二十一頁
開校式當日ノ情況、總督告辭……………	第二十二頁
創立第一年(大正十一年度)……………	第二十三頁
創立第二年(大正十三年度)……………	第二十四頁
創立第三年(大正十三年度)……………	第二十五頁
創立第三年運動各部活動狀況……………	第二十六頁
創立第四年(大正十四年度)……………	第二十七頁
創立第四年運動各部活動狀況……………	第二十八頁
創立第五年(大正十五年度)……………	第二十九頁
創立第五年運動各部活動狀況……………	第三十頁
創立第六年(昭和二年度)……………	第三十一頁
創立第六年運動各部活動狀況……………	第三十二頁

現況

創立第七年(昭和三年度)……………	第三十三頁
創立第八年(昭和四年度)……………	第三十四頁
創立第九年(昭和五年度)……………	第三十五頁
創立第十年(昭和六年度)……………	第三十六頁
創立第十年(昭和六年度)……………	第三十七頁
創立第十年(昭和六年度)……………	第三十八頁
創立第十年(昭和六年度)……………	第三十九頁
創立第十年(昭和六年度)……………	第四十頁
創立第十年(昭和六年度)……………	第四十一頁
創立第十年(昭和六年度)……………	第四十二頁
創立第十年(昭和六年度)……………	第四十三頁
校舎、寄宿舎、校庭ノ現況……………	第四十四頁
各科實習施設ノ概況(其ノ一)……………	第四十五頁
各科實習施設ノ概況(其ノ二)……………	第四十六頁
各科實習施設ノ概況(其ノ三)……………	第四十七頁
運動各部ノ活動狀況……………	第四十八頁
生徒一日ノ生活……………	第四十九頁
記念庭園……………	第五十頁

回顧錄(記事)

創立より現在まで

裡里農林學校誕生の前後を顧みて

前本校校長 山本寂雄……………(一)

創立盡力者回顧錄(イロハ順)

當校建設の動機と寄附の勳勞

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡大學村 全郷北海道會議員

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

益山郡農會副會長 今村 次郎……………(四)

裡里農林學校開設當時を思ひ出して

前福岡市荒津公園當守 篠原辰三郎……(7)

裡里農林學校創立前後の回顧

鳴谷八十八……(10)

裡農創設の思ひ出……熊本縣八代郡鏡町

下山時彦……(10)

裡里公立農林學校創立當時の思ひ出

前本道學務課長 守山五百足……(11)

創立實行委員 在九州

本校現職員回顧録

十四年を回顧して……

現本校教諭 西村 一平……(12)

十三年前の回顧……

現本校教諭 瀬戸山綱政……(12)

本校に於ける記念植樹史

現本校教諭 野老山定剛……(12)

本校舊職員回顧録(轉任又は退職職)

裡里農林學校の肥料倉に就いて

少年期の農林學校……

現全州農林學校教諭 橋本秀二……(13)

現仙州農林學校教諭 増田美精……(13)

現本校教諭 推原左馬三……(13)

創立當時の思ひ出……

現本校教諭 林田金城……(13)

裡農第一回配屬將校として

步兵第六十六聯隊大隊長 佐 川西信藏……(14)

裡里農林精神の思ひ出

現水原高農教諭 大久保玄一……(14)

現井井農林學校校長 川西信藏……(14)

假校舍の思ひ出……

現本校教諭 藤井勝男……(14)

思ひ出の儘(寫眞は語る)

林科第一回卒業生 田代初矢……(14)

野菜的微笑(實習の回顧を語る)

農科第四回卒業生 坪倉壽雄……(15)

獸醫畜産科の創立當時の思ひ出

獸畜科第一回卒業生 崔 成 浩……(15)

本校沿革史摘要並現況(記事)

本校沿革史の摘要

一、緒言……(11)

第二、設置に關する地方民の要望及關係盡力者の斡施情況……(11)

第三、開校前後の狀況……(12)

第四、開校式の狀況……(12)

第五、教育勸諭御下賜……(13)

第六、本校所管の變更……(13)

第七、學校長の更迭……(14)

第八、學校教練の實施……(15)

第九、獸醫畜産科の設置……(15)

第十、創立關係者及盡力者氏名(矢第不同)……(15)

(一) 總督府關係……(15)

(二) 全縣北道關係……(15)

(三) 民間盡力者……(15)

第十一、本校舊職員住所氏名……(15)

第十二、學教、生徒、職員累年狀況……(15)

第十三、卒業生累年狀況……(15)

(附) 活動狀況別調……(15)

第十四、經費累年狀況……(15)

現況

第一、建物種類、坪數、竣工年月日……(16)

第二、學校敷地、園場、演習林面積……(16)

第三、修業年限……(16)

第四、入學資格……(16)

第五、學級數及生徒定員……(16)

第六、現在生徒數調……(16)

第七、生徒通學及寄宿狀況調……(16)

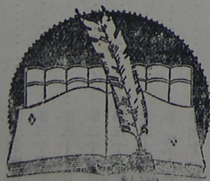
第八、學科課程及每週教授時數……(16)

第九、本校現職員……(16)

第十、校務分掌系統表……(16)

第十一、寄宿舍生累年狀況表……(16)

以上



台臨ヲ仰ギ奉リテ

畏クモ 閑院宮載仁親王殿下ニハ、今秋當地ニ於テ舉行セラレタル師團對抗演習御觀戰ノ砌、親シク全羅北道ニ御成リアラセラレ、忝クモ在郷軍人御視閲ノ爲、昭和十年十月十二日本校々庭ニ台臨遊バサル。

又、同日午前十一時ニハ、畏クモ 梨本宮守正王殿下ニハ、消防組御視閲ノ爲ニ本校々庭ニ台臨遊バサル。

恰モ日ヲ同ジウシテ 二宮殿下ノ台臨ヲ辱ウシタル本校ノ無上ノ光榮、寔ニ恐懼感激ニ堪ヘザルトコロナリ。

閑院宮載仁親王殿下ニハ、同日午後二時ヨリ群山公園下廣場ニ於テ、道内男子中等學校生徒ニ對シ御視閲ヲ賜リ、本校職員生徒一同モ謹ミテ其ノ榮ニ浴シ、親シク御英姿ヲ仰ギ奉ル事ヲ得タリ。

梨本宮守正王殿下ニハ消防組御視閲ヲ終ヘサセラレタル後、特ニ本校々舍内外ノ各般ノ教育施設ニ亘リテ親シク台覽相成リ農業教育ニ關シテ種々御下問アラセラレ、畏レ多クモ 小官 一一奉答申上グル無上ノ光榮ニ浴シタリ。軍務御多端ノ砌ニモ拘ラズ斯クモ教育産業ニ御心ヲ御注ギ遊バサレ、特ニ朝鮮ノ農業ニ對シテ深甚ナル御關心ヲ垂レサセ給フ御心ヲ拜シ奉リ、職ヲ斯道ニ奉ズル身トシテ洵ニ以テ恐懼感激ニ堪ヘザルトコロナリ。

斯クノ如ク九千萬國民ノ等シク敬仰尊崇措ク能ハザル 二宮殿下ノ台臨ヲ辱ウシタル本校ノ光榮之ニ過グモノナク、聖代ノ御恩澤ニ唯々感激ノ涙ニ咽ブノミナリ。

玆ニ 不肖 淺學菲才ノ身ヲ以テ職ヲ本校長ニ承ク。日夜競々トシテ其任ヲ曠ウセンコトヲ恐ル。職ヲ本校ニ奉ズル者、益々職務ニ精勵シ、生徒一同亦ヨク其ノ分ヲ守リ、報國ノ至誠ヲ致シ、其ノ光榮ヲ永遠ニ保持シ、以テ御心ニ副ヒ奉ラン事ヲ期セザルベカラズ。謹ミテ無上ノ光榮ヲ錄シ、恭シク微衷ヲ披瀝シ奉ル次第ナリ。

昭和十年十一月

裡里公立農林學校長

古川 不可止



(日二十月十年十和昭) 察視御臨古御校本の下殿宮本型
(下閣督總垣字はるぐ上申添附御)

梨本宮殿下御台臨記念植樹



閑院宮殿下御台臨記念植樹



察視御臨來御の從侍寺大德
(所の出退御日三月十年十和昭)



閑視御の下殿宮院閑るけに山群
(てし對に訓青校學等中内道・日二十月十年十和昭)



最全地敷、官属附、合校ルタミ望リヨ提女侍

寄附金
全景



第一本館

提



館本一第・庭前・門正ルタミ望リヨ面正

創立關係並盡力者（總督府關係）其ノ一



長課務學前
氏盛 松 村 松



長課務學前
氏郎 太 幸 創 弓



長局務學前
氏郎 三 善 田 榮



屬課務學府本前
氏夫 忠 路 山



官學視府本前
氏郎 一 駿 田 上



長課務學前
氏三 彦 原 荻



事知前
下閣樹茂林



事知前
下閣忍邊渡



事知前
下閣藏仲角爰



事知前
下閣鎬軫季



事知現
下閣勤元高



事知前
下閣均承洪



事知前
下閣佳瑞金

本校創立以來の本道參與官並内務部長



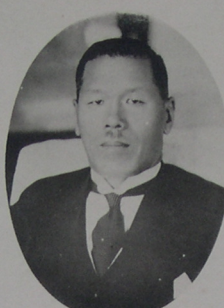
長部務内道本前

氏 潤 保 久 大



長部務内道本前

氏 理 文 岡 片 故



官與參道本

氏 源 僑 郷



官與參道本前

氏 詰 榮 朴



官與參道本前

氏 昌 潤 金



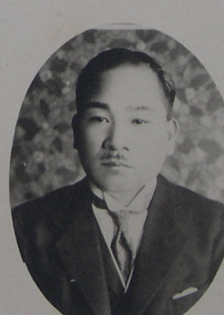
長部務内道本前

氏 三 文 賀 芳



長部務内道本前

氏 郎 三 芳 下 松



長部務内道本前

氏 士 良 島 大



長部務内道本前

氏 誠 本 松

本校創立以來ノ歷代本道内務部長並學務課長



長課務學道本前
氏平忠井磯



長課務學道本前
氏一小谷神



長課務學道本前
氏足百五山守



長部務内道本現
氏郎太治明部阿



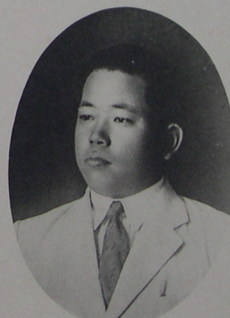
長課務學道本現
氏郎三秀澤藤



長課務學道本前
氏記直田山



長課務學道本前
氏六大田原



長課務學道本前
氏一道戸瀬

本校創立關係並盡力者（本道關係）其ノ二



長庫書秘道本前
氏助 翁 石 明



長課務農道本前
氏男 生 尋 八



長部務財道本前
氏盛 登 川 石



長察教督中前
氏郎 次 梅 崎 石



長課務庶郡山益前
氏郎 三 儀 上 池



守郡山益前
氏彬 清 村 野



氏 一 工 上 井 故
堤金族遺在



社會式株事農縣川石
者表代
氏 衛 兵 宇 藤 岩
基雄北成



理代主揚農本熊元
氏 郎 太 正 上 井
里 裡



員議會道
氏 藏 信 井 板
里 裡



主揚農村今
氏 郎 次 一 村 今
村揚大郡山益



員議會道
氏 久 長 野 川
郡安扶



員議會道
氏 三 和 桐 片
登 黃



主揚農橋大
氏 一 與 橋 大 故
市垣大在族遺



員委行實立設
氏 助 米 扇
里 裡



主揚農本橋
氏 央 本 橋
堤 金



員揚農川細元
氏安 尻野故



人配支鮮朝揚農山東
氏驗聽屋中故



人配支場農川細
氏彦邦原永
面前春郡山益



長々社會料肥木多
氏郎次余木多
府別縣庫兵



故川
氏郎太藤崎
市京東在族遺



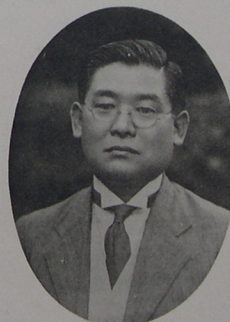
長社會式株業興二不
氏郎太寬井藤
城京



主場農橫
氏郎太瀬橫
登黃



主場農橋大元
氏平增崎口故
市橋豐在族遺



長店支堤金招東元
氏亮井安
市京東



主場農本熊
氏平利本熊
郡溝江



二葉社朝鮮出張
齋藤 信一 氏
清沢郡



元眞田農場主
眞田 壽助 氏
廣島縣



元不二農場代理
故佐藤彌太郎 氏
遣族在里



赤木峰太郎 氏
新泰仁



金北道會議員
青田竹治 氏
裡里



創立常務委員
山下 時彦 氏
熊本縣飽町



島谷農場主
島谷 八十八 氏
滿洲開闢面



本校敷地選定委員
篠原 辰三 氏
福岡市



宮崎崎農場主
宮崎 佳太 氏
清沢郡



石川農創場立者
北尾 榮太 氏
金澤市

民間盡力者（其ノ四）



創立勲員

故森谷元一氏

在黃登



山東農場北支支場長

森田唯彦氏

在高雄



安佐郡農場

鈴木基三氏



里裡

故田中富次郎氏

民間盡力者中、奥村竹三郎氏、大倉米吉氏、半尾壽郎氏、倉田光藏氏、矢野康氏、大澤甚太郎氏、大和田眞治氏、故兵頭泰氏の御寫眞は、再三御依頼せしも遂に意を得ず、掲載し得ざりしは深く遺憾の意を表す次第なり。



現校長

古川不可止先生



旗 校



庭前び及館本一第



生先山戸瀬



生先 村西



生先山老野



佐少 田益



生先 松常



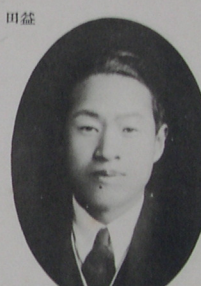
生先 潤川



生先 本橋



生先 川寺



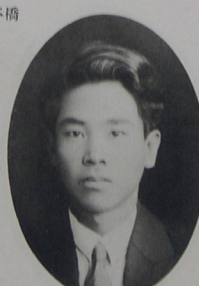
生先 畑大



生先 上村



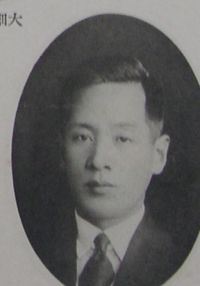
生先 部保



生 先 李



生先 岩黒



生先 村今

本校現在職員（其ノ二）



生先 巖十五



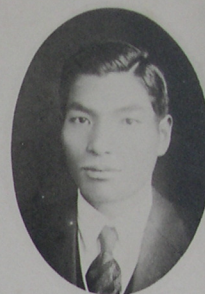
生先 田藤



生先 田永



生先 戸廣



生先 本森



生先 本山



生先 澤富



生先 安森



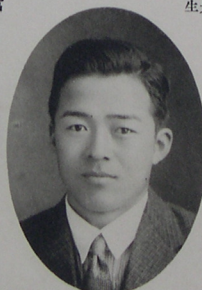
生先 田千



生先 李



生先 田岩



生先 村中



生先 藤伊



生先 元山

本校現在職員（其ノ二）

本校舊職員（轉任、辭任順）其ノ一



生先齊義野永



生先徹 山高



生先郎昌田鶴



長校代二第
生先雄實本山



長校代初
生先雄正高萬



生先休正羽鷹



生先久喜村野



生先沫 東安



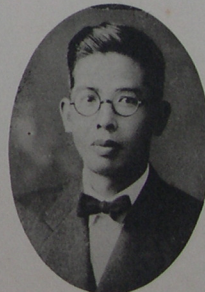
生先雄正庄本



生先鼎 野草



生先治武渡馬



生先二秀本橋



柳故 先生
三 甚



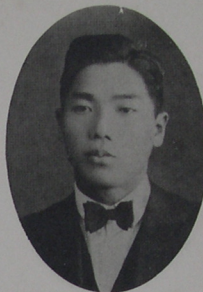
推名 佐之照 先生
佐之照 先生



椎原 佐馬 先生
三 馬 佐 先生



増田 美殖 先生
殖 美 田 先生



徐京 烈 先生
烈 京 徐 先生



萬本 重次 先生
次 重 本 先生



伊東 茂 先生
茂 東 伊 先生



西川 信藏 先生
藏 信 西 先生



中故 島治 先生
德 治 島 先生



諸林 武俊 先生
俊 武 林 先生



大久保 玄一 先生
一 玄 保 先生



前田 金城 少佐
校將麗配 前 佐少 城金田林

(月十年三十正大) 式校開



間 校 式 々 場



開校式當日，正門

元朝鮮總督 齋藤實閣下，開校式當日，告辭

告辭

[illegible]

朝鮮總督

男爵齊藤

創立第一年度(大正十一年)



最初の寄宿舎

創立當時の寄宿舎で實業社一の建物
本寫眞は轉移直前の思出深い生集の川西號



假校舎の面影

大正十一年四月より九月迄の創立最初の假校舎で
北郷實業社の建物を利用したる右より官舎寄宿舎校舎まで



寄宿舎女關の前生集のひ
(大正二十年)



大正二十年頃の寄宿舎
大正十一年九月より教職員室等に使用
せられた時代の景状

白創第一年至第二十年正大
實習狀況



水田ノ全景 (大正十二年六月)

(圖苗葉採ノ在現ハ所場年一十正大)入手ノ園菜蔬



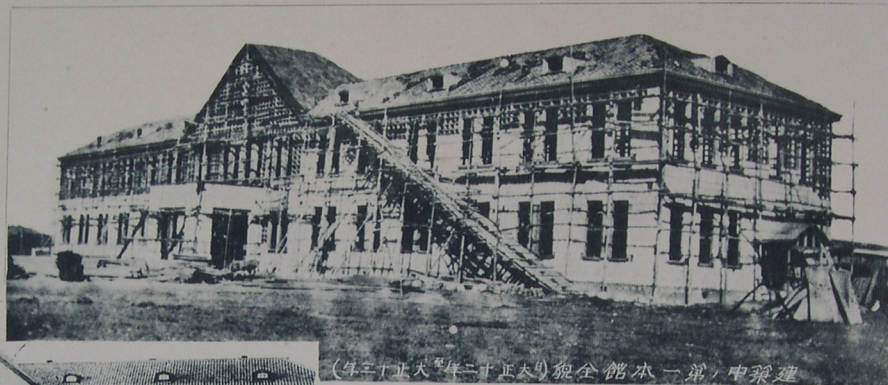
苗採 (大正十二年六月)



測量實習 (大正十二年)



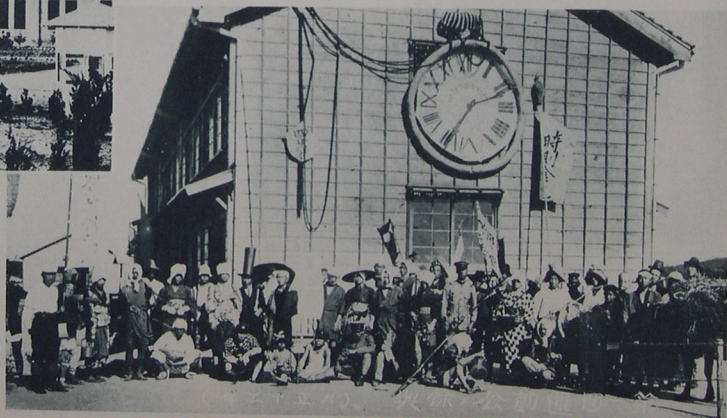
稻扱 (大正十一年十一月)



（大正三年三月）第一館全貌（大正二年三月）

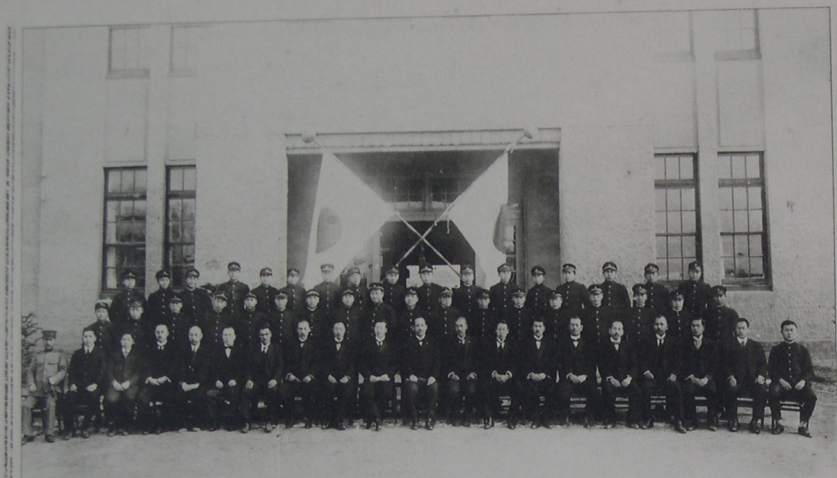


開校當時、館前庭
（大正三年三月）



第一回卒業記念寫眞

（農業科第一回）



大正十三年頃ノ庭前狀況



部 球 蹴



部 球 野



(膠便會大球庭等中鮮南) 部 球 庭



部 道 武

創立第四年（大正十四年度）



高山本校演習林 其ノ



官立裡農林學校演習林



同上 其ノ二



遊清ノト一ボルケ於ニ堤女侍



(室係關業林) 會評品林農



(回二第科農) 眞寫念記業卒

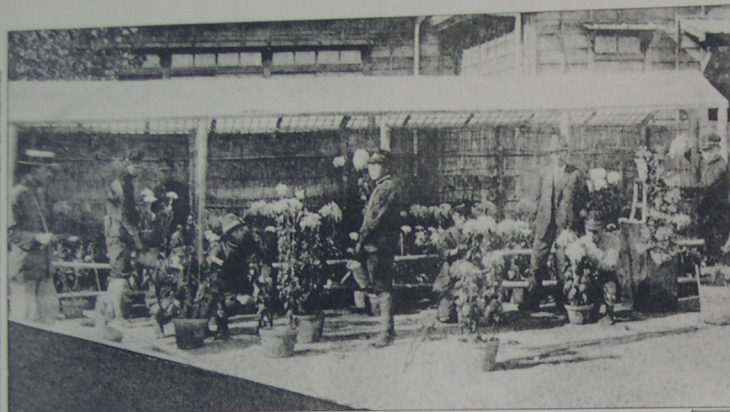


念記加參習演動機季秋團師廿第



識 白

我等ハ校門ヲ進ミテ師長ノ前ニ立テ
我等ハ知識ヲ修メテ業ヲ成スベシ
我等ハ労働ヲ厭ミテ精神ナルトク解スベシ
我等ハ健康ヲ重シテ元氣ヲ振フベシ
我等ハ倫素自ラ持シ克己ヲ省スベシ
我等ハ長幼相分親愛ナルベシ
我等ハ高雅ナル趣味ヲ養ヒ自然ヲ友トスベシ
我等ハ遠大ノ志懷ヲ抱キ目標ヲ定メニスヘラリ



農業者ノ栽培状況



創立第五年（大正十五年）



當時ノ實業關係ノ諸先生
前列右ヨリ
椎原、瀬戸山、高山、本庄、
西村先生
後列右ヨリ
今村、中島、増田、小田助手

創立第五年（大正十五年度）



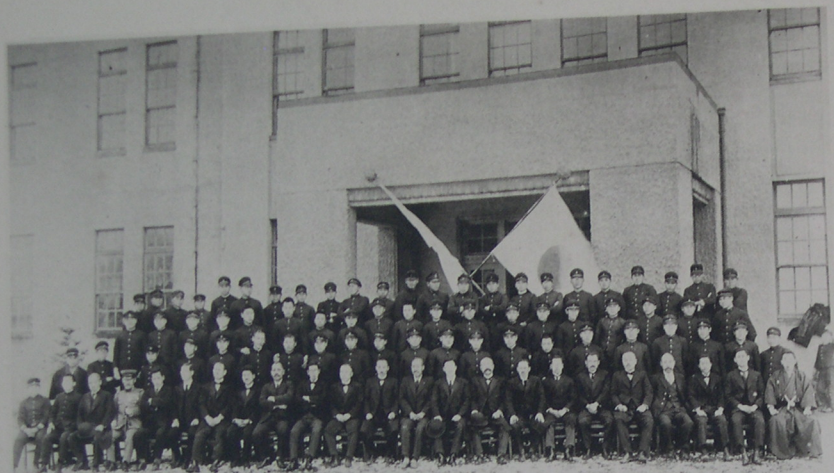
卒業記念寫眞（農科第三回
林科第一回）



第二回陸上運動會



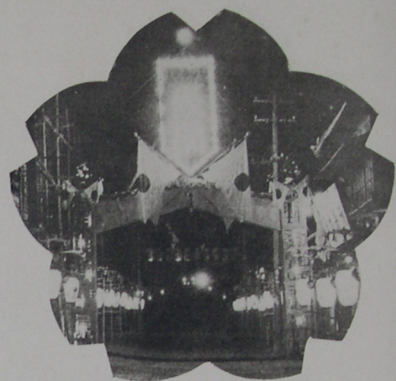
官舍全景



(回二第科林圃四第科農)眞寫念記業卒



會評品林農



門祝奉典大御



景全場農 舍校ノ時當ルタミ望リヨ堤女侍

室控ルセ築新

(回三第科業林回五第科業農)眞寫念記業卒



操体同合ルケ於ニ一テ育体



室業作ルセ築新



(尉大渡馬ノ官教) 韓 敦 ノ 時 當



半東館本二第ルセ築新



(回四第科林 回六第科農) 眞寫念記業卒



庭前の時當造築



都一ノ畑花藝園ノ時當



門校の前装改



習 實 綯 繩



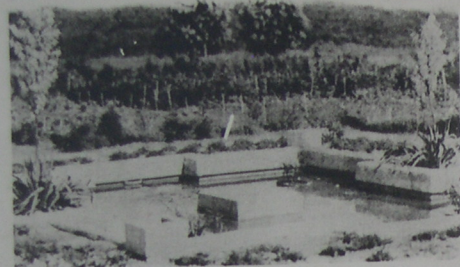
壇 花 念 記 業 卒 科 農



植 補 ノ 林 習 實 面 峯 八



驗 實 理 病



壇 花

神饌水田御田植式



創立第九年（昭和五年度）



花壇ノ一部



（回五第科林 回七第科農）眞寫念記 卒



壇花ノ科農



野外演習
裡里機關庫裏ニ
於ケル飯盒炊事



式與授器兵



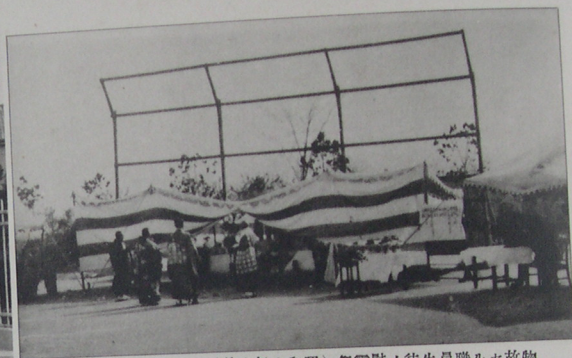
設創ノ隊鼓ハツラ



(津東於)式列分兵間ノ下間長團師



（業事記念年周十）築改ノ門正



（月十年七和昭）祭靈慰ノ徒生員職ルセ故物



列行灯提ノ賀祝年周十



（日一月十年七和昭）式賀祝念記年周十



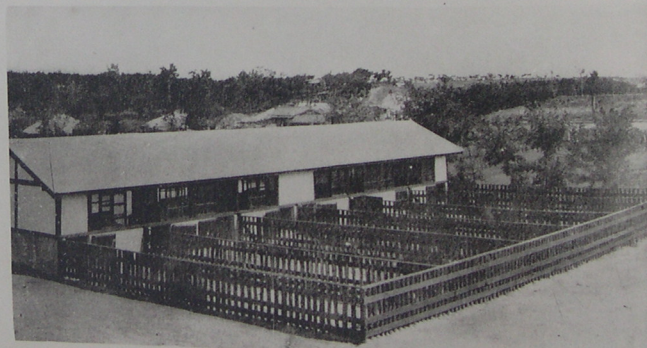
（回七第科業林 回九第科業農）眞寫念記業卒



舎牛乳科畜獸ノ築新



閱査ノ練教校學



築新ノ舎豚科畜獸



（回九第科林回一十第科農）眞寫念記業卒
（生業卒回二第科產畜醫獸）



口入ノ室療診畜家



城津會 舞劍興餘會動運上陸



兵関ノ官令司軍鮮朝田植

創立第十三年（昭和九年度）

獣醫畜産科牛馬ノ管理状況



農科圃場ノ一部



林業科圃場ノ一部

（二、其）況概の設施習実科各



業作密奥，場農畜經



化畜有，營經業農



況狀，菜園成促



況狀，作稻

況狀林成栽植防砂 きのんはまや及林松黒ルケ於ニ林習實面峯八



(年四畜獸) 習實剖解



(年五畜獸) 習實鍛蹄



習實工木ノ年學四第科業林



蹴 球 部



相 撲 部



庭 球 部



野 球 部

部 技 競 (全校生徒の
マラソン発進状況)

武 道 部



練 教 銃 執



讀 奉 語 勅 ル ケ 於 ニ 會 德 報



學 默 ノ 舍 宿 寄



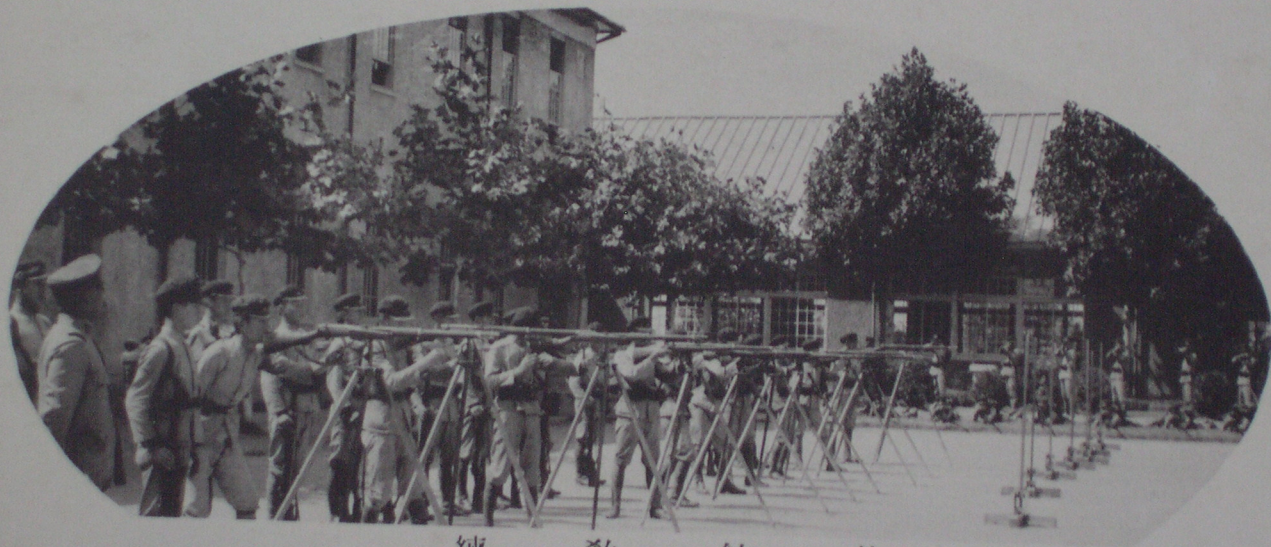
(日十月毎)業作仕奉ルケ於ニ日生更力自



拜 參 社 神



會 朝



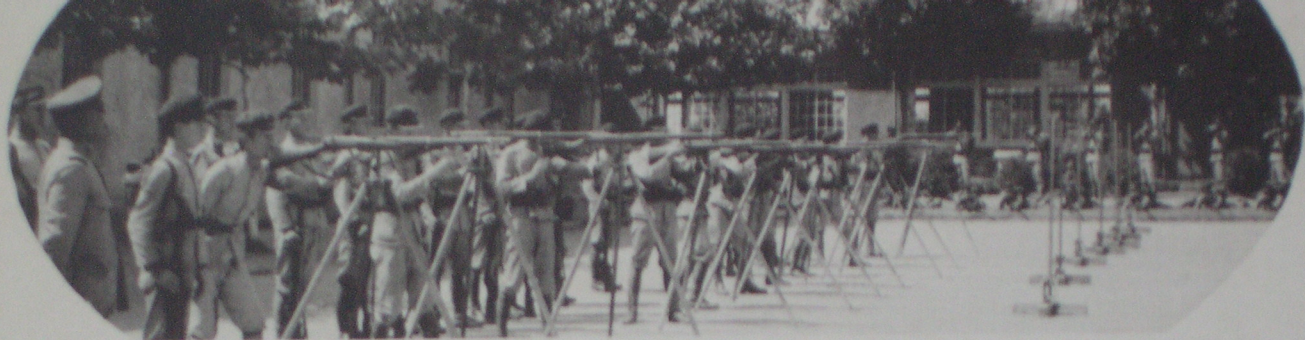
執　　銃　　教　　練



（日十月毎）業作仕奉ルケ於ニ日生更力自



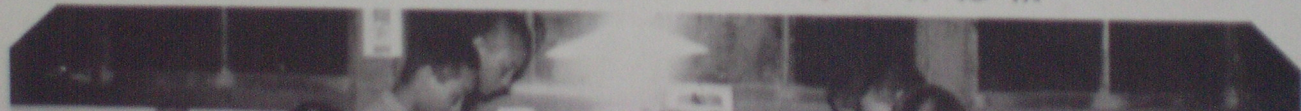
拜 参 社 神



練 教 銃 執



讀 奉 語 勅 ル ケ 於 ニ 會 德 報



問はず機會ある度毎に草木を愛しませうと人々に話してゐる。殊に荒廢せる朝鮮の山野に於て愛林思想普及の徹底は急務と思ふ。嘗ては私の手で天地返しされた五アルルの土地、野菜の微笑したかの懐しい土地は今誰かの手に依つて土地は肥え、野菜はよく成育してゐること、信じてゐるが秋になると思ひ出すのは微笑した白菜のことである。その昔、本朝の菅原眞公が謀臣の讒言に依つて筑紫へ左遷になられた時、御自分の御佳ひになられた梅の御殿の梅樹に向つて

「東風吹かば句おこせよ梅の花

あるじなしとて春を忘るな」

と詠まれた様に、私も去るに當つて一日ゆつくりと五アルルの畑へたすんで、恵みあればと心の中で別を告げたのであつた。道眞公の梅は來春になると幾山河を越えて筑紫まで咲き匂つたであらうが、私の育てた白菜はその收穫を最期として飾つたのみだつた。けれども五アルルの土地を廻つて、天地返し、即ち本庄先生即ち白菜の微笑として私には、終生忘れることの出来ない楽しい想ひ出として残つてゐるのである。

獸畜科創設當時の思ひ出

獸畜科第一回 崔 成 浩

昭和六年四月春闘の時、吾獸醫畜産科は、堤が丘の母校に於て呱呱の聲を擧げたのであつた。設備は言ふを俟たず専門の先生すら一人も居らなかつた。教室もなかつたので第一本館二階の中央にある特別教室——を吾獸畜科第三學年生の専用教室にあてがはれたのである。當時生徒数は三十一名であつて、席は教室の三分の一を占め、長椅子に本

本校沿革史摘要並現況

本校沿革の概要

一、設置決定	大正十年十月一日
一、開校	大正十一年四月一日
一、假校舎時代	同 五月五日
一、開校式	同 五月五日
一、教育勅語下賜	大正十三年十月十六日 同 十二月二日

入もない長テールを使用して居つた。獸畜科産みの親たる時の第三代校長山本實雄先生の創立苦心談や、内地の獸畜關係學校視察談並に新任先生のことに就いて色々お話を承つたことは、今も印象深く残つてゐる。我が農林學校が高等農林の昇格運動をやつて居る間に義州農學校には畜産科が新設される事に決定したのである時は年度末の多忙を極めた時であつた。昇格運動意の如くならざるを知るや山本校長先生は、「全鮮一の農林學校に獸畜科の設置なきは不當である」との見地から東奔西走遂に當局の認可を受けるに至つたのである。朝鮮に於ける最初の獸醫畜産科卒業生たるの榮譽を擔ふに至つたのもその御蔭によるものである。新任先生の到着をどんなに待ちこがれたことか。初代主任大久保玄一先生が愈々御着任と云ふ時には、午後六時頃なるにも拘らず、待つて居つた通學生と舎生全部が驛前に出迎へに出たのである。それからと云ふものは師弟一體となつて創業の爲に奮闘に奮闘した。さん／＼と照り輝く太陽の下に吾々は汗みどろとなつて土を掘つた。一部は擔架で低い所に之を運んだ。先生も鉢巻姿にシヨベルを持つて一緒に働いてゐる。誰一人遊ばうとか、きつといか思ふ者はなかつた。黙々として一心不乱だ！皆一日も早く地均しをし、木を植えて、獸畜科の建物が立派になることを念じて居つた。實に吾がクラス、メイトはよくチーム、ワークがとれてゐた。獸畜科としてのスピリットが、先生方を中心にして出来てゐたのである。實習をすまし先生と別れて歸る時には、東の侍女堤は夕空に白く映え、西の益山は太陽を沒してもう暗くなつて居るのであつた。吾獸畜科は何時頃完成するに至るであらうか、等とも考へながら吾等は重い疲れた脚を運びつゝも、希望に燃える眼で赤い煉瓦の建物をふりかへるのであつた。

一、所管變更	大正十四年四月一日
一、學校教練實施	昭和五年八月一日
一、獸醫畜産科設置	昭和六年三月廿日

大正十一年四月一日 本府告示第九十三號本校設立及位置の件告示せらる

同 學校長に任ぜらる
同 京城公立業農學校長高昌正雄本校
同 年五月五日 農業科一年五十名三年五十四名を
選拔し業農株式會社假校舎に入學せしめ宣費を

行ふ

同 年九月二十二日 新校舎の内寄宿舎第一寮竣工を告

げたるに付黨業株式會社假校舎より移轉す

同 大正十二年四月一日 寄宿舎第二寮及食堂、煙肉室、鍋

舎、豚舎、堆肥舎、養蠶室竣工

同 年六月十六日 齋藤總督來臨せられ親しく校務を

視察せらる

同 年八月四日 有吉政務總監來臨せらる

同 大正十三年四月二十日 第一本館新築落成に付寄宿舎より

移轉す

同 年十月十六日 新築落成式を舉行す

同 大正十四年四月一日 勅令第八十八號により朝鮮總督府

諸學校官制改正の結果全羅北道に移管せらる

同 年四月一日 學校長高正雄休職を命ぜられ教

諭山本寅雄學校長に任ぜらる

同 大正十五年四月九日 文部省告示第二十七號徵兵令第十

三條第一項第二號に依る中學校の學科程度と同等

同 以上の學校と認定せらる

同 年五月二十四日 學則の一部(時數改正認可せらる

同 改正認可せらる

同 改正認可せらる

同 年六月八日 宇垣總督(臨時代理)來臨せられ

親しく校務を視察せらる

同 年八月八日 湯淺政務總監來臨せらる

同 昭和三年四月二十一日 山梨總督來臨せられ親しく校務を

視察せらる

同 年五月二十九日 學則の一部(授業料の件)改正認

可せらる

同 年六月十日 作業室新築竣工

同 年七月二十八日 池上政務總監來臨せらる

同 年七月三十一日 貯藏庫改造竣工

同 年十月七日 第二本館(特別教室)『渡廊下、空

氣暖房共』新築竣工に付農林、四、五、學年及理

化學教室寄宿舎第一寮より移轉す

同 昭和四年三月三十一日 生徒控室(生徒昇降口共)新築竣工

同 昭和五年一月三十一日 兒玉政務總監來臨せらる

同 年八月一日 學校教練實施のため歩兵第八十聯

隊大隊副官陸軍歩兵大尉林田金城歩兵第七十九聯

隊附に補せられ本校服務を命ぜらる

同 昭和五年九月十五日 學則の一部(休業日の内祭日祝日

及時數の件)改正認可(上記の日附は施行月日と

す)せらる

同 年十月一日 學則の一部(試験に關する件)改

正認可(上記の日附は施行月日とす)せらる

同 年十二月十六日 假銃器庫(食堂改造)竣工

同 昭和六年三月三十一日 兵器庫新築竣工

同 年四月一日 學則の一部改正認可の結果『獸醫

畜産科』併置

同 昭和七年三月二十九日 學校長山本寅雄農務課長兼

水原高等林學校教授に任ぜらる

同 年三月二十九日 朝鮮總督府視學官古川不可止本

校學校長兼教諭に任ぜらる

同 年三月三十日 特別校舎(獸醫畜産科)竣工

同 年三月三十一日 學校正門竣工

同 年八月一日 豚舎二棟堆肥舎竣工

同 年九月十五日 豚舎乳牛舎(元堆肥舎模樣替)

竣工

同 年十月一日 本校創立十周年記念式舉行

同 年十一月五日 本校職員及卒業生並校友物故者五

十六名に對する慰靈祭舉行

同 昭和八年五月十一日 國旗掲揚臺竣工、五月二十七日國

旗掲揚式舉行

同 年八月二十七日 家畜診療所、蹄鐵工場竣工

同 九年八月十日 校舎内外、官舎水道布設工事、第

一次竣工(約九歩通)

同 年二月二十八日 學則の一部(學科教授時數増減の

件)改正認可

同 年九月五日 第二本館(標本室、農林實驗準備

室、農林實驗室)増築竣工(中央部より東南側二

分の一)

同 年十月十八日 本校友會所有地七三坪學校用地

〔寄附

同 年十二月一日 校舎内外水道布設工事第二次竣工

〔全部竣工〕

同 年十二月四日 第一本館、第二本館渡廊下(中央

部東南側二個所)竣工

同 年十二月二十日 細羊舎竣工

同 昭和十年三月二日 發芽促成室並材料置場、鶏舎竣工

〔二棟其實習地建設の分〕

同 昭和十年十月三日 德大寺侍從來臨御視察せらる

同 昭和十年十月十二日 閑院宮殿下、梨本宮殿下御視閲及

御視察の爲臺臨あらせらる

第一緒言

本校が大正十一年五月五日僅に二學級、生徒百四名を以て假校舎に呱々の聲を擧げてから早くも滿十年を経過した其の間校運年と共に隆昌を加へ、卒業生を出すこと七百七十九名に達し、半島文化の發達、産業の進展に多大の貢獻をなした、あるのは、固より皇恩の惠澤の大なるによるものであるが、一面本道が肥沃なる大平野を擁し朝鮮主要農産地である特殊の地位を有してをるのと、當局並に地方官

民一同の深甚なる誘掖指導と、校友諸氏の熱烈なる母校愛護との賜物であつて、衷心感謝の至りに堪へぬ次第である殊に本校の創立は多年官民有志が東奔西走具に辛酸を嘗めて設立の氣運を助長され、遂に實現を見るに至つたもので茲に本校の沿革を記述するに當つて、先づ其の功績を稱へ其の斡旋狀況を併記して各位の厚志を記念することとする

第二 設置に關する地方民の要望 及關係盡力者の斡旋狀況

一、大正七年九月本道實業家會同の際本道に甲種程度の農學校の設立を要望し左の發起者により協定が出来た。之れが本校設置に關する要望の第一聲である。

大倉 米吉 下山 時彦 赤木峰太郎 熊本 利平
川野 長久 鈴木仁三郎 橋本 央 奥村竹三郎
大和田眞治 牛尾 壽郎 北尾榮太郎 榊富安左衛門
川崎藤太郎 宮崎佳太郎 嶋谷八十八 澁谷 善作
森谷 元一 大橋 與市 今村一次郎 片桐 和三
故野尻 安 佐藤福太郎

二、大正八年二月發起者會を裡里學校組合事務所に開會し甲種農業學校設置の爲、寄附金十萬圓を總督府に提供し大正九年度から官立學校として開校方申請及寄附金募集方法に就て協議し尙事務進捗を圖るため左の常務委員を選定した。

川崎藤太郎 北尾榮太郎 宮崎佳太郎 熊本 利平
下山 時彦 永原 邦彦 大和田眞治 田中徳太郎
今村一次郎 片桐 和三 嶋谷八十八 故佐藤福太郎
三、大正九年十二月になつて本府に於て官立農林學校設置の計劃あるのを聞いて、常務委員は裡里農林株式會社に委員會を開き、道廳からは第一部長代理として石川第二部長守山學務課長出席該校を本道に設置するを條件として所要敷地全部及建築費二十萬圓を寄附することとし、該資金募集を申合はせた。次で李道知事は本府に出頭前記協定事項を齋藤總督、水野政務總監、大塚内務局長、校田學務局長、弓削學務課長に具陳し本道に官立農林學校の設置方を請願した。

四、大正十年一月釜山郡廳に發起人及内地人營農者の主なるもの會同し、李道知事以下關係部長及釜山郡守外關係者出席、官立農林學校を本道内に設置方を請願する爲建築費二十萬圓及所要敷地二十萬坪寄附の件を協定し、本府に對し官立農林學校設置請願書を提出した。請願者及請願書の要旨は左の通りである。

釜山郡 大橋農場主 代理 山崎 増平

同 侯爵 細川農場主代理 永原 邦彦
同 不二農場主代理 佐藤福太郎
同 眞田 壽助
同 今村一次郎
同 青田 竹治
同 板井 信藏
同 華星農場主代理
同 倉田 光藏
同 奥村竹三郎
同 釜山郡 阿部農場主代理 安井 亮
同 同東洋殖産株式會社釜山支店長 橋本 央
同 井邑郡 熊本農場主代理 大久保 到
同 同 東津水利組合理事 赤木峰太郎
同 同 沃溝郡 川崎農場主代理 榊 瀧太郎
同 同 沃溝郡 森谷 元一
同 同 沃溝郡 宮崎佳太郎
同 同 沃溝郡 嶋谷八十八
同 同 沃溝郡 大倉 米吉
同 同 沃溝郡 牛尾 壽郎
同 同 沃溝郡 岩藤宇兵衛
同 同 沃溝郡 井上 工一
同 同 沃溝郡 川野 長久
同 同 沃溝郡 鈴木仁三郎
同 同 沃溝郡 森田 唯彦

農林學校設立ノ趣旨

勸業行政ノ普及ト各地營農者ノ自覺ト相待ツテ近時農業ノ進歩ヲ見ツ、アリト雖尚諸般ノ點ニ關シ改良ノ餘地甚多ク今ヤ水利開墾ノ業各地ニ興リ朝鮮ノ寶庫タル本道農業振興ノ氣運ニ際シ最モ遺憾ナルハ朝鮮特殊ノ營農耕種ノ智識技能ヲ有シ自ラ農業ニ從事シテ地方ニ範ヲ示ス者官廳又ハ農場等ニ在リテ指導スル者ハ多クハ内地ニ於ケル農業學校出身者ニシテ朝鮮農事ニ精通センハ尙幾多ノ經驗ヲ要シ朝鮮ニ於ケル現在農學學校出身者ハ尙其ノ實力足ラサルノ一事ナリ。水原農林專門學校ハ所在地北鮮ニ偏シ且生徒收容ニ限りアリ。之レ南鮮地方農家子弟ノ農業教育上一大缺陷トスル所以ナリ。本道釜山郡裡里ハ全北平野地方ノ中心ニシテ交通至便ナル南鮮地方上級農業學校所在地トシテ他ニ得難キ好適地タルヲ失ハズ。是レヲ以テ裡里地方内地人營農者ヲ中心トシテ本道農事經營者一致協力シ資金二十萬圓ヲ醸出シ所要校地ト共ニ之レヲ提供シテ甲種農業學校設置ヲ企圖ス

セントス。サレドス種學校ノ經費維持、民間ノ實力到底能クスル處ニアラズ。道地方費ト雖現在ノ狀況ヲ以テシテハ之レガ支辨亦困難ナルベク、且ツ南鮮地方内鮮人子弟ヲ入學セシムル點ヨリスルモ此際國費ニ依ル農林學校設置ノ希望ヲ上申シ一致協賛之ガ實現ヲ期シテ將來益々南鮮地方農產業ヲ振興セントス。

五、大正十年一月本府上視學官高昌京城農業學校長敷地視察の爲來裡に付敷地選定委員左記の者立會實地を調査した。

八尋

生男 沖永 紋治 野村 清彬 久保 久保

守山五百足 山本 重人 山崎 増平 今村 一次郎

篠原辰三郎

六、大正十年二月益山郡廳に於て發起人及主なる營農者會同寄附金配當方及實行委員選定其他に關し協議し左の實行委員を選定した。

山崎 増平 今村 一次郎 板井 信藏 片桐 和三

屬 米助 青田 竹治 大澤甚太郎 田中富次郎

七、大正十年六月地方經濟事情の變調に依つて寄附金二十萬圓の醸出困難であるので李道知事は實行委員と同道上府し十五萬圓に相當する敷地及建物を寄附する事に諒解を得た。

八、大正十年九月本府から松村學務課長、西澤澤、高昌京城農業學校長、實地見分の爲來裡に付片岡内務部長、沖永土木課長、守山學務課長、野村郡守、池上庶務課長及實行委員板井信藏、山崎増平、片桐和三、屬米助、大澤甚太郎田中富次郎等會同、學校の位置寄附金取擧及假校舍並に寄宿舎に充てる黨業會社の建物提供方等に付協定した。

九、大正十年九月敷地買収に就いては土地評價委員及買収委員を定めることとし左の委員を決定した。

土地評價委員

片桐和三 屬米助 篠原辰三郎 矢野 康 兵頭 泰

敷地買収委員

片桐和三 屬米助

一〇、大正十年十月四日本府より、大正十一年から開校される官立農林學校の位置を本道益川郡裡に決定の旨發表されたので、爰角知事は請願者及各委員共の他關係者に通知し、本府との協定條件の遂行に關し盡力方を要望した。

第三 開校前後の狀況

一、大正十年十月、官立農林學校の位置裡に決定した旨

發表されると同時に京城公立農業學校高昌校長は本校創立事務囑託を命ぜられ、超えて大正十一年二月全州高等普通學校川西教諭に同事務を委嘱されたので同教諭は京城に出頭し、京城公立農業學校を假事務所として、同校職員應援の下に開校諸般の事務に従事した。

二、大正十一年三月三十一日勅令第一五一號朝鮮總督府諸學校官制改正後、同年四月一日裡農林學校の設立となり、同日附を以て京城公立農業學校長高昌正雄本校々長に任せられ尙其他の職員も夫々任命された。

三、假校舍は當時舊裡に在つた黨業株式會社の二階建築蠶室（階上、教室、階下職員室及寄宿舎）及平屋建築蠶室（食堂及寄宿舎）に改造を加へ炊事場は別にバラツク建一棟を新設した。此の工事は四月上旬着手して同月二十日頃竣工したので開校期日を五月五日とすることに決定した。

四、入學試験は四月十一日から三日間京城中學校及全州小學校で舉行したが、志願者約五百名に達し、農林業科第一學年五十名、農業科第三學年五十名を選抜した。

五、學級編成は當初農業科林業科共第一學年各五十名宛入學せしめて二學級編成の計劃の處、當時各道の農業學校修業年限は二ケ年であつたので是等卒業生の進路を考慮し、第一學年は一學級に止め、農業科第三學年の一學級を編成したのである。

六、斯くして大正十一年五月五日假校舍に於て前記の生徒を收容して入學式を舉行した。當時の職員は高昌校長、川西教諭、高本、松下兩囑託で、其の後間も無く瀬戸山西村、草野諸教諭の來任となり、次で李源奎、樺原兩教諭着任し、創立第一年の職員組織は整つた。

七、校地の買収は開校前既に創立委員の盡力に依つて買収を完了され、敷地四町三反歩、實習地十町歩、官舎敷地一町歩で、更に演習林として官有林一千五百町歩の讓與を受けた。

八、開校當時は校舍敷地は恰も埋立工事中で建物は僅に寄宿舎第一寮一棟の基礎工事に着手してをるのに過ぎなかつたが其の後工事は順調に進捗し、九月二十二日竣工を告げたので、假校舍から此處に移轉し右建物の階上五室を寄宿舎に、階下は職員室、教室、合監室、事務室、食堂に充當した。

第四 開校式狀況

大正十三年十月十六日開校式を舉行した。

當日來賓の主なるものは本府からは萩原學務課長、笹枝

師、道廳からは多角知事を始め横田内務部長、神谷學務、
沖土木、桑原農務、守山社會、明石地方、江藤會計の各課
長、佐藤、花房兩技師、益山、井邑兩郡守、本縣創立委員
裡里高等女學校長其他各學校長、地方有志等百六十餘名に
達した。式は午前十一時より開始し、學校長學式の辭、
二、國歌合唱、三、學校長式辭、四、工事報告五、總督告
辭(稗原學務課長代讀)六、來賓多角知事、群山日報社長
裡里高等女學校長、板井創立委員等の祝辭七、祝電披露
八、學校長の閉式の辭があつて午後零時半終了し、それよ
り來賓を校内各所に案内し、終つて別室に於て祝賀宴會を
開き午後二時半盛況裡に退散した。左に總督告辭學校長式
辭及多角知事の祝辭を掲記する。

總督告辭 (前掲につき省略)

學校長式辭

裡里農林學校新營工ヲ竣リ茲ニ本日ヲ以テ開校ノ式典ヲ
學グ此時ニ於テ朝野貴賓諸彦ノ臨場ヲ辱ウシタルハ本校
ノ最モ光榮トスル所ナリ、願フニ朝鮮開發ノ要義ハ産業
ノ振興ニアリ、産業開拓ノ基礎ハ指導者ノ養成ニアリ特
ニ國格ヲ創キ本校ノ創設セラレタル亦故アリトイフベシ
抑モ事物ハ其ノ成ルノ日ニ成ルニ非ズ其ノ由ツテ來ル所
アリ假校舎開始以來既ニ三年此ノ間地方有志各位ノ熱誠
ナル同情ト深厚ナル援助ヲ待ツコト甚大ニシテ能ク今日
アルコトヲ得タリ、衷心感謝措ク能ハザルナリ不肖乏シ
キヲ校長ノ重任ニ亭ク、然モ本校ノ前途ハ吝マストシテ又
多事ナルモノアリ致メナホ其ノ期待ニ反カザランコトヲ
恐ル冀クハ來賓各位爾後一層深甚ナル御同情ヲ賜ラン事
ヲ本校ノ基礎確立校運ノ發展ノ初メニ當リ茲ニ聊カ蕪辭
ヲ述ベ以テ式辭トナス

大正十三年十月十六日

裡里農林學校長 從六位勳六等 高島 正雄

多角知事祝辭

官立裡里農林學校ハ農業教育及産業行政上朝鮮ノ現狀ニ
鑑ミ時勢ニ適應シテ創立セラレシ處ニシテ當初生徒ヲ假
校舎ニ收容シテ授業ヲ開始シ爾來校舎ノ建築校地ノ整理
等決定ノ計劃ヲ實現シ今や輪奐ノ壯規模ノ大諸般ノ設備
殆ント完成ヲ告ケ茲ニ開校ノ式典ヲ舉行セラル、ハ洵ニ
慶賀ノ至リニ堪ヘス
惟フニ朝鮮ニ於ケル農業教育ノ使命タルヤ産業ヲ開發シ
テ民力ヲ涵養シ以テ國力ヲ充實ニ資シ民福ノ増進ヲ期ス
ルニアルハ素ヨリ論ヲ俟タル所ニシテ各種教育機關ノ
擴充整備ト共ニ農業教育ノ振興ヲ期スルハ本府施政上ノ

一要目タリ翻テ本道ノ狀況ヲ案スルニ其ノ地勢ハ湖南ノ
沃野ヲ擁シテ朝鮮ニ於ケル主要農産地タル特殊優越ノ地
位ヲ占メ地方開發上完備セル農林學校設置ノ必要ヲ訴フ
ルコト既ニ久シク道民ノ熱望亦極メテ切ナルモノアリキ
當時本道知事李鶴錦氏ハ有志者ト相謀リ協力以テ本府ニ
陳情ヲ重ネ銳意劃策事ニ當リ有志者又進ミテ巨額ノ贖金
ヲナシ校舎ノ一部及敷地ヲ提供シテ該事業協賛ノ誠意ヲ
捧クルアリ幸ニシテ此ノ要望ハ本府ノ容ル、トコロナ
リ地ヲ湖南交通要衝ニトシ官立裡里農林學校ノ設置ヲ見
ルニ至レリ是レ當ニ道下ノ子弟教育上至大ノ利便ヲ得ル
ノミナラス依テ以テ南鮮地方ニ於ケル文化ノ啓發産業ノ
振興ニ將來スヘキ効果極メテ多キヲ信シテ疑ハス余ハ此
ノ機會ニ於テ本校設置關係當局者並本事業ニ貢獻盡瘁セ
ラレタル地方有志各位ニ對シ深厚ナル謝意ヲ表スル
共ニ此ノ盛儀ニ列シ歡喜ノ情轉タ禁シ難キモノアリ冀ク
ハ本校力地方産業教育ノ源泉タルト共ニ其ノ責務ノ重且
ツ大ナルニ省ミ益々模範的施設ヲ遂ケ醇美ナル校風ヲ樹
立シ健實有爲ノ人材ヲ輩出シ以テ地方開發ト國運ノ發展
ニ寄與セラレンコトヲ一言所懷ヲ述ヘテ祝辭トス

大正十三年十月十六日

全羅北道知事 從四位勳三等 多角 仲藏

第五 教育勅語下賜

大正十三年十二月二日教育勅語御下賜。

第六 本校所管の變更

大正十四年四月一日勅令第八八號に依り朝鮮總督府諸學
校官制改正の結果本校は全羅北道に移管された。

第七 學校長更迭

一、大正十四年四月一日學校長高島正雄休職を命ぜられ教
諭山本實雄本校校長に任ぜられた。

二、昭和三年三月二十七日學校長山本正雄、朝鮮總督府道
技師兼水原高等農林學校教授に任ぜられ朝鮮總督府道視
學官古川不可止本校校長に任ぜられた。

第八 學校教練の實施

昭和五年八月一日學校教練實施の爲步兵第八十聯隊副官
歩兵大尉林田金城歩兵第八十聯隊附に補せられ本校服務を
命ぜられた。 斯種學校で學校教練の實施は本校を職とし
る。

第十 創立關係者及盡力者氏名

(次第不同)

第九 獸醫畜産科の設置

本校に獸醫畜産科を設置することは數年前から計劃する所であつたが、地元民の熱烈なる要望もあり、且つ道評議員會に於ても建議する所となり、設置速進の氣運漸次増大しつゝあつた。道當局に於ても極力實現するやう本府に要求された結果昭和七年度より實施の運びとなつたが更に好轉して昭和六年度より實施さることとなり、遂に三月二十日附認可の指令に接し多年の懸案茲に解決することを得た。

而して右新設獸醫畜産科の學級は從來の農業科林業科第三學年より分科する事とし、獸醫畜産科農林兩科とも生徒の補缺募集に着手し志願者百四十八名中獸醫畜産科第三學年三十一名を選抜して四月二十日入學式を舉行した。

左に獸醫畜産科設置を要望するに當り本府に提出した趣意書の要旨を掲記する。

獸醫畜産科設置趣意書ノ要旨

一、獸醫畜産科設置ノ必要

現下朝鮮ニ於ケル一般人ノ家畜ニ對スル知識ハ極メテ幼稚ニシテ飼養管理ニ古來ノ慣習ヲ墨守シ醫藥治療ノ知識ニ至リテハ悉無ト稱スルモ過言ナラス故ニ一般當業者ノ知識啓發ハ今日ノ場合最モ急務トスル處ナリ然ルニ之レカ指導獎勵ニ從事スヘキ人物ヲ養成機關ナク爲ニ當局ハ其ノ指導者ヲ内地ニ求ムルカ又ハ不十分ナル講習等ニヨリテ僅ニ之ヲ充スル狀態ナリ而モ内地ヨリ來ルモノハ言語不通民情不案内等ノタメ他ノモノハ素養不十分ノタメ何レモ長期間其ノ全能率ヲ發揮サル能ハズ隨ツテ其ノ成績充分ナル能ハサルハ理ノ當然ナリ故ニ此ノ養成機關ヲ鮮内ニ設ケテ其ノ完備ヲ期スルハ朝鮮ノ畜産改良増進及農業開發ノタメ極メテ適切ナル計劃ナリト信ス

二、特ニ本校ニ設置スル理由

本校ガ其ノ創立ノ當時鮮内農業教育ノ狀態ニ鑑ミ全鮮ヲ對象トシ總督府直轄ノ下ニ創設セラレタルコトハ今更言フ迄モナシ其ノ後時勢ノ進退ニ伴ヒ其ノ間ノ事情ニ種々變化アリタリト雖モ今尙幾多ノ特殊性格ニス即チ經費支辨關係(國庫補助)生徒募集(鮮内各地ニテハ全鮮ニ亘ル)卒業生ノ活動狀況(各地ニ亘ル全羅北海道ニハ其ノ一割止マルニ過ギズ)等ヨリ見ルモ全ク全鮮の立場ヲ有ス故ニ各道ニ於テ比較的實施シ難キ獸醫畜産科ヲ先ツ本校ニ設置スルハ極メテ自然的且ツ合理的ナリト信ス

Table with 4 columns: Position (e.g., 總督府, 前總務局長), Name (e.g., 齋藤實, 柴田善三郎), and other roles (e.g., 前農務課長, 前土木課長). The table lists names of individuals involved in the establishment of the institution across various departments and regions.

前任實業課長	伊集院兼吉	前高藏課長	藏原武夫	全羅北道	裨里(百惠改姓)	河波政七
前南原郡守	金基泓	前扶安郡守	白定基	岡山縣	英田郡大古村大字田井三三(本籍)	井上重三郎
前南原郡守	蟻川敬夫	前扶安郡守	末岡輝若	昭和三年六月十四日死亡	書院	肥田
前津島郡守	鄭雲鴻	前金堤郡守	金奉斗	京畿道	永登浦昭和燃燐麥酒會社工場	高昌正雄
前津島郡守	平安寺末夫	前金堤郡守	平安正則	黃海道	平山郡農會	鶴田昌郎
前井邑郡守	朴詰照	前金堤郡守	徐丙周	佐賀縣	福岡市西公園下	石川松若
前井邑郡守	山下良祐	前金堤郡守	福田嘉一	平安南道	龍岡公立中堅農民學校	高山
前高藏郡守	金相鎬	前扶安郡守	福田嘉一	黃海道	信川郡加山面東拓駐在所	小田春生

今井一次郎	坂上正信	岩井正信	井上正信	橋本工	奧村三	大久保米	大倉米	牛尾米	野尻米	熊田利	倉野利	安井利	山崎利	藤井利	青木利	赤澤利	大澤利
大和田實治	大橋和久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久	川崎長久
全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道
裨里(百惠改姓)	英田郡大古村大字田井三三(本籍)	永登浦昭和燃燐麥酒會社工場	平山郡農會	福岡市西公園下	龍岡公立中堅農民學校	信川郡加山面東拓駐在所	威平公立高等小學校調課	嘉德郡南袋町庄司七七七	後前穀物検査支所	裨里東拓支店五山里駐在所	禮山公立農業學校教諭	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道	全羅北道
河波政七	井上重三郎	高昌正雄	鶴田昌郎	石川松若	高山	小田春生	馬美彦	中島末彦	中島末彦	中島末彦	中島末彦	中島末彦	中島末彦	中島末彦	中島末彦	中島末彦	中島末彦

第十一 本校舊職員 (昭和十年現在)

平安北道	奉川郡守	費肥兼教諭	李源主	京畿道	佐賀縣	東松浦郡玉島村南山三一九二	馬渡武治	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道
福岡縣	死亡(年月不詳)	福山本重人	京畿道	佐賀縣	東松浦郡玉島村南山三一九二	馬渡武治	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道
敬賀縣	愛知郡愛知町大字石橋七〇八(本籍)	磯部榮次郎	京畿道	佐賀縣	東松浦郡玉島村南山三一九二	馬渡武治	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道
大阪府	西成郡丹島村四三二(本籍)	三村新三郎	京畿道	佐賀縣	東松浦郡玉島村南山三一九二	馬渡武治	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道
大正十三年八月五日死亡	堀江(武道)	松田龍太郎	京畿道	佐賀縣	東松浦郡玉島村南山三一九二	馬渡武治	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道
和歌山縣	和歌山縣内務部土木課	津田義夫	京畿道	佐賀縣	東松浦郡玉島村南山三一九二	馬渡武治	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道
江原道	襄陽監獄官學校教諭	矢野次郎吉	京畿道	佐賀縣	東松浦郡玉島村南山三一九二	馬渡武治	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	京畿道

第一

建物種類及坪數

(昭和十年現在)

(概算計劃)對スル
 完成建物一、二〇坪七〇〇

完成建物一、二〇坪七〇〇

名	稱	坪數	竣工年月	價 格	備 考
第一	寄宿舎	以下全部 三五六坪六一	大正一一、七	三七、二三一、五一〇	
第二	寄宿舎	三八五、六六	大正一一、四	三四、七九四、九七〇	
食堂	炊事場	三二一、八三	大正一一、四	三八、三九〇、〇〇〇	
養 藏	室	一五三、五〇			
貯 藏	室	一四、〇〇	大正一一、四	一九、三六〇、〇〇〇	
催 青	室	八、五〇			
牛馬舎	牧夫舎	四二、六六	大正一一、四	二、一三三、〇〇〇	
豚 (鬼)	舎	四三、〇〇	昭和七、八	一、〇五四、七六〇	
堆 肥	舎	二一、〇〇	昭和七、八	六〇〇、〇〇〇	
鶏 舎		二七、〇〇	昭和一一、四	一、〇二三、四一〇	
煙 肉	室	七、八七	大正一一、四	七八〇、〇〇〇	
農夫舎及林具室		四四、〇〇	大正一一、四	六、二二四、〇〇〇	
第一	本 館	四七四、〇八	大正一一、四	四七、四七八、五八〇	
宿直室、小使室		一六、〇〇	大正一一、四	二、〇八〇、〇〇〇	
收 納	舎	八〇、〇〇	昭和 三、三	二、九八〇、〇〇〇	
貯 藏	庫	二二、八一	昭和 三、七	六五一、〇三〇	
第二	本 館	四七一、六五	昭和 三、三	三三、五〇〇、〇〇〇	
生徒 控	室	一一〇、〇〇	昭和 四、五	一一、六八八、〇〇〇	
生徒 昇降口		一一、五〇	昭和 四、五	一、〇二二、〇〇〇	
兵 器	庫	八〇、〇〇	昭和 六、三	二、七四〇、〇〇〇	
獸 科	室	二〇、三〇	昭和 七、三	一〇、〇四五、〇〇〇	
乳 牛	舎	(附屬家共) 三三、七六	大正一二、四	一、〇五五、〇〇〇	
家 畜	診療所	(地下室共) 三三、五〇	昭和 八、八	二、三八〇、〇〇〇	
蹄 鐵	工 場	二四、〇〇	昭和 八、八	一、〇一〇、〇〇〇	
飼 羊	舎	二〇、〇〇	昭和 九、二	四〇〇、〇〇〇	
絞 草	場	八、三七	昭和 一〇、三	一八二、三四〇	
材料	置成場	(本館寄宿舎共全部) 一一五、五〇	大正一二、四	一一、〇三七、八二〇	
渡廊下及便所		二、九九四、一〇	昭和 九、二	二六九、八三一、四二〇	
官 計 舎		一七一、五六	大正一二、六	二四、二八六、六八〇	

元堆肥舎改造ノ分

第二

學校敷地・園場・演習林面積

地 目		坪	數	地 目	坪	數
校舍敷地			一二、九四〇坪	官舎敷地		二、九〇三坪
畑作畑			一一、四一二	實習林		二、町七段
			二〇、九二八			一、二〇〇町歩
			四、五八一			

第三 修業年限

一、五ヶ年

第四 入學資格

一、年 齡 滿十二年以上
二、學 力 尋常小學校卒業又は修業年限六ヶ年の普通學校を卒業したるもの若くは之と同等以上の學力を有するもの

第五 學級數及生徒定員

一、拾參學級 五百人

農 業 科
林 科
獸醫畜產科

第六 現在生徒數調

(昭和十年五月末現在)

計		第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年	
		二	二	二	二	三	二	農	林	農	林
		ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	科	科	科	科
		組	組	組	組	組	組	科	科	科	科
內	地	人	朝	鮮	人	計					
二	八	二	二	三	〇	九	二	二	二	二	二
二	六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	四	六	一	七	七	三	四	九	一	〇	六
五	二	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	五	五	五	五	五	五	五	五	五
三	三	三	四	四	四	四	四	四	四	四	四
九	九	九	八	八	八	八	八	八	八	八	八
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	

第七

生徒通學及寄宿狀況調

(昭和十年度) 昭和十年五月末現在

學 年		種 別	寄 宿 舍 生	汽 車 通 學			徒 步 通 學			計	在 籍
內 地	計			自 宅	其 他	計	自 宅	其 他	計		
計	計	人 人	二〇七 一一八 二二五	五九八 五二〇 一五〇	三二二 五五五 一五五	一〇〇 五五五 一二九	七二七 一六三 一九六	七五五 一七五 一四八	一七五 二二八 三〇三	二八二 二四六 五二八	

第八 學科課程及每週教授時數表
(昭和十年度)

〔農〕は農業科〔林〕は林業科〔獸畜〕は獸畜産科とす

[illegible]

(昭和十年度)

[illegible]

擔當學科目	實習實驗	主任學科目	校務	分掌	官職	姓名	就職年月日	原籍
修身、公民、實習 森林學、森林經理、幾何、實習 農學、農產製造、蔬菜、農具、實習 農業 森林學、測量、林業法規、幾何 三角、算術、幾何、造林、代數、實習 森林、植物	修身、公民 數學	修身、公民 數學	校務部主任、實習部主任 林業科實習部主任 林業科實習部主任 林業科實習部主任 林業科實習部主任	兼教諭 古川不可止 昭和七、三、二九熊本縣 山崎昭一、三、三〇鹿兒島縣 山崎昭一、五、一七高知縣 山崎昭一、五、二〇山口縣 山崎昭一、五、九宮崎縣	教諭 山崎昭一	山崎昭一	昭和七、三、二九熊本縣 山崎昭一、三、三〇鹿兒島縣 山崎昭一、五、一七高知縣 山崎昭一、五、二〇山口縣 山崎昭一、五、九宮崎縣	熊本縣

特用作物、品種改良、農業大意、 農產經濟、農業法規、林業、經濟 商業大意、英語、實習	農學物理、土壤、肥料、土地改 良、化學	畜產製造、寄生蟲、內臟畜產 科、衛生、英語、實習	地理、畜產、實習	修身、美藝、英語、劍道、實習	鮮語、漢文、英語	化學、物理、藥理、劍道、實習	森林保護、林業大意、林產製造、 測量實習	修身、普通作物、農業大意、土壤 肥料、作物、病蟲害、實習	修身、國語	修身、內科、細菌、畜產製造、傳 染病、英語、實習	生理、解剖組織、代數、病理、畜 生、汎論、實習	修身、國語、習字	修身、國語、歷史、地理	飼料作物、牛學、動物、外科總論 獸醫法規、人休生理、實習	教練、體操	蹄馬、馬學、外科手術、外科各論 跛行診斷、劍道、實習	果樹、花卉、圖畫、造園、實習	劍道	實習	實習						
農學科第五年級主任	農學科第五年級主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	農學科第四年級主任	農學科第三年級主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任	獸醫學科實習係主任						
教諭大畑、二、四、二九熊本縣	教諭寺川、三、四、五福井縣	教諭橋本、三、四、五、五一和歌山縣	教諭川瀨武三郎、八、七、四東京府	教諭今村、惟明大正一、四、二二本縣	教諭黑星岩智治昭和、七、九、一三福岡縣	教諭宇繼、甲昭和、七、八、一九京畿道	教諭隈部、雄雄大正一、四、六、一〇熊本縣	教諭村上、久人昭和、三、五、一四熊本縣	教諭森本、東昭和、八、六、一六鳥取縣	教諭廣戸、惇昭和、九、三、七島根縣	教諭永田、良風昭和、九、八、四東京府	教諭藤田、武夫昭和、一〇、五、六長崎縣	教諭五十嵐泰吉昭和、七、八、二九山形縣	教諭陰千田、昇昭和、九、三、三一熊本縣	教諭記森安作治郎大正一、四、三、三一鳥取縣	教諭記富澤喜代治大正一、二、一〇、一五埼玉縣	教諭師山本、源一昭和、七、四、一山口縣	教諭師山元、榮藏昭和、五、九、一六鹿兒島縣	教諭以伊藤、雄司昭和、八、六、一七新潟縣	教諭託中村、順介昭和、八、五、二〇愛知縣	教諭託岩田、常吉昭和、九、八、三一靜岡縣	教諭託野間榮太郎大正一、四、五、二七佐賀縣	校監福岡、政愛昭和、一〇、一〇、三一山梨縣	助手李完、山昭和、七、六、一全羅北道	助手李智、鉉昭和、七、三、二全羅北道	看守李、政愛昭和、八、一二、二〇愛媛縣

第十 昭和十年度校務分掌系統表

第十一 寄宿舎生累年狀況表

[illegible]